観察会報告

黒川自然観察会

横山謙二

観察会参加者。黒川自然園前

アサヒナカワトンボ

5 月 11 日（日）静岡市清水区興津川の支流黒川にて、静岡昆虫同好会と共催で自然観察会を行いました。昨年は雨のため中止となりましたが、今年はいい天気となり、23 名の参加がありました。

興津川流域では2022 年 9 月の台風 15 号にともなった大雨で、河川敷や山が崩れる被害があり、今だに修復途中の道路も多くあります。観察会のスタート地点である黒川自然園も15 号通過直後は、山から崩落した岩砕で、遊歩道や池が埋もれるほどの被害を受けています。2 年経過した今でも、多くの瓦礫が残されていますが、以前のようにたくさんのノアザミが咲き、その花にオナガアゲハやカラスアゲハなどのアゲハチョウの仲間が集まってきており、だいぶ自然が回復しているように見えました。

黒川自然園周辺で昆虫を探していると、参加者の一人、三宅飛鳥さんが「これ何ですか」と写真をもって来ました。それは、ゴイシシジミというシジミチョウの仲間でした。ゴイシシジミは、黒川周辺での記録はおそらくなく、このチョウが見られるとは、チョウに詳しい昆虫同好会のみなさんもだれもが予想していなかったと思います。

この黒川自然園周辺では、その他にツマキチョウなどのシロチョウの仲間、ヒメキマダラセセリなどのセセリチョウの仲間、アサヒナカワトンボ、ホソミイトトンボなどのトンボ目、ルイヨウマダラテントウ、ヨツボシオオキスイなどのコウチュウ目も観察できました。

その後、黒川を渡り、右岸の遊歩道を歩き黒川キャンプ場に向かいました。

この右岸の道沿いも、ところどころ、瓦礫に埋もれているところがあり、人があまり来ないのか、タケノコがあちらこちらに伸びていたり、大きな木が倒れていたりと、だいぶ道が荒れていました。

ここでは、ミヤマカワトンボやニワハンミョウなどが観察できました。

こうして、今回の観察会でも多くの昆虫を観察することができ、楽しく過ごすことができました。今年の観察会では、例年見られるチョウのミヤマカラスアゲハ、甲虫のイタドリハムシ、両生類のアカハライモリやモリアオガエルを見ることができませんでした。

ここ数年、以前黒川流域で普通に観察できたサカハチチョウやダビドサナエなどのサナエトンボの仲間を見ることができていません。かわりに、イシガケチョウを普通に見かけるようになって来ました。こうした生物相の変化の確かな原因はわかりませんが、我々人間よりも、小さな生物相は、環境の変化に敏感なのかもしれません。

ケブカトラカミキリ

平井克男

ケブカトラカミキリ

本種は体長８～12㎜で成虫は4～５月に現れる。全身黒色で、白色～黄白色の微毛と長い立毛でおおわれ、トラカミキリの中で特異な種である。寄主植物はナギ・イヌマキの生木で、分布域は四国（室戸岬）、九州鹿児島県南部、種子島、屋久島である。千葉県でも発見されているが、これはイヌマキの人為的移入により広がったとされている(藤田宏・平山洋人・秋田勝己, 2023)。

静岡県での最初の個体は静岡市大谷のふじのくに地球環境史ミュージアムの建物２Ｆの窓の外側に静止していた個体を2023年４月に岸本年郎氏が採集されている(多比良嘉晃・岸本年郎, 2023)。

ミュージアム周辺の有度山では古くからミカン栽培が行われ、その周りを防風垣としてイヌマキが植えられていたが、現在では放置されたイヌマキも多く残されていて、これらより本種が発見されている。筆者も高くのびたイヌマキの樹幹を歩きまわる個体、交尾している個体を発見し驚いた次第である。静岡に入った経緯などははっきりしない。

筆者の住んでいる焼津市高草山周辺でもイヌマキが防風垣として利用されているところを2, 3ヶ所を見つけ、調査したが本種の確認はできなかった。

ケブカトラカミキリの交尾

引用文献

多比良嘉晃・岸本年郎（2023） 静岡市におけるケブカトラカミキリの発生, 月刊むし,630号, p 42.

藤田宏・平山洋人・秋田勝己（2023） 日本産カミキリムシ大図鑑 Ⅱ , むし社, 420pp.